

わたずん ニュース

ITAMISHI KONCHUKAN NEWS

第43号 2024/7

特集 特別展「カブクワこれくしょん」



特集

とくべつてん 特別展「カブク

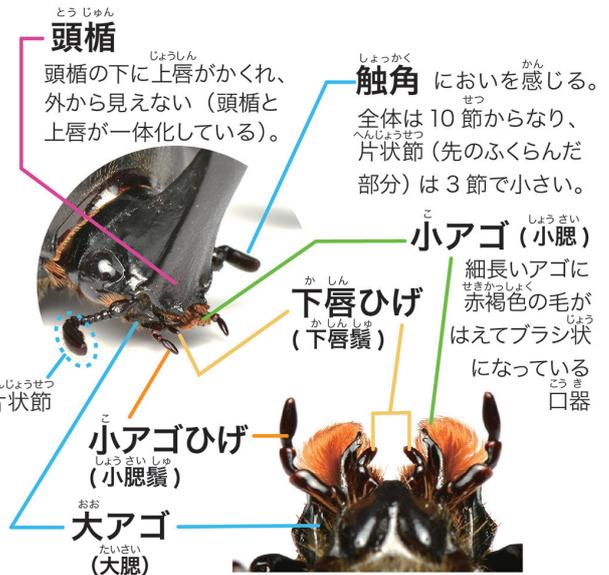
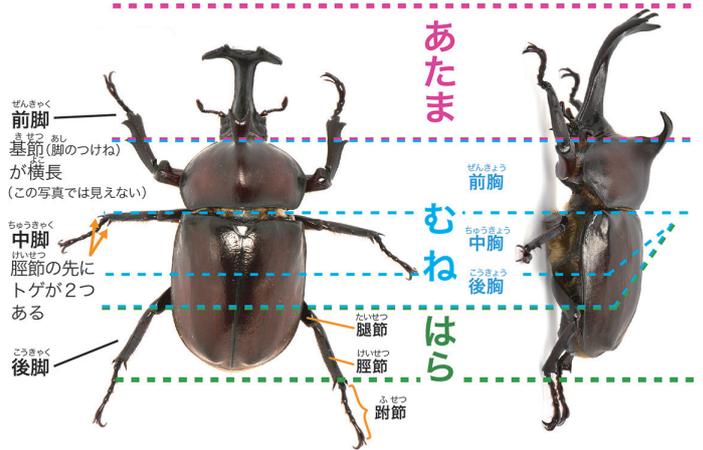
2024年7月20日から11月2

カブトムシってなに？

コウチュウ目(Coleoptera) コガネムシ上科(Scarabaeoidea) コガネムシ科(Scarabaeidae) カブトムシ亜科(Dynastinae) に分類される、種のまとまりです。世界からは1,500種ほどが知られています。頭部や口器、触角の形状など共通の特徴をもっており、形態的な特徴としては下記のとおりとなります。

- 1) 上唇は頭楯の下に隠れ、外から見えない(上唇と頭楯が一体化している)
- 2) 触角は通常10節からなり、片状節は3節で通常小さい
- 3) 大アゴは広がり、伸張して上方に曲がり、頭楯からはみ出して背面から見る事ができる
- 4) 前脚の基節は横長で、中脚の脛節の先端に2刺をそなえる

カブトムシにも実は大アゴがあります。また、オスが巨大なツノをそなえているイメージがありますが、上記特徴の中で重要なのは、ツノの有無はまったく関係がないということです。実際、カブトムシ亜科のスジコガネモドキ族、クロマルカブト族やヘクソドン族のカブトムシには、ツノのある種がほとんどいません。



クワガタムシってなに？

コウチュウ目(Coleoptera) コガネムシ上科(Scarabaeoidea) クワガタムシ科(Lucanidae) に分類される、種のまとまりです。世界からは1,500種以上が知られています。触角の形状や腹板の数など共通の特徴をもっており、形態的な特徴としては、下記のとおりとなります。

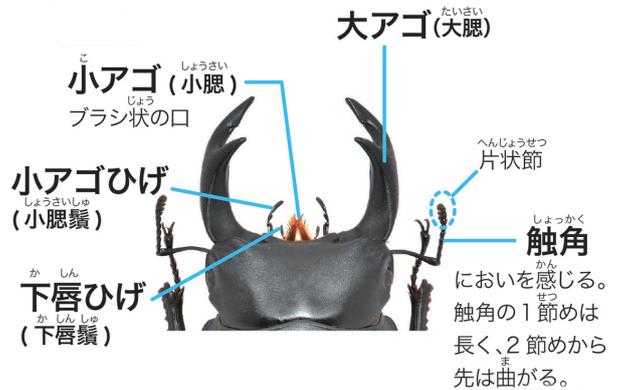
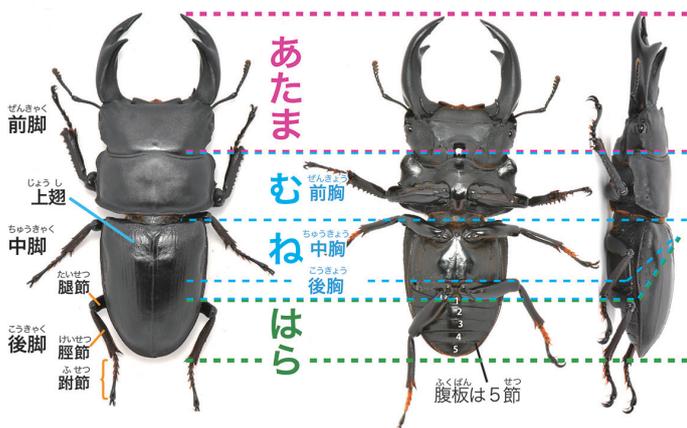
- 1) 腹板が5節
- 2) 触角の基部1節は長く、第2節以降は屈曲し、片状節は互いに独立してほとんど密着できない
- 3) 幼虫の中脚と後脚には発音器がある

オスが巨大な大アゴをそなえているイメージがありますが、マグソクワガタ属やマダラクワガタ属のようにオスでも大アゴが発達しない、もしくは小さいために外見からはほぼわからないようなグループも含まれます。さらに、中にはカザリツノクワガタやイッカククワガタのようにツノのあるクワガタムシまで存在します。



ワこれくしょん」

5 日 まで、絶 賛 開 催 中 ツ！！！！



特別展「カブクワこれくしょん」のうらがわ

●「カブクワこれくしょん」の嚙矢

当館は1990年に開館しましたが、その開館準備の際に、展示用として多種・多数の昆虫標本を購入し、収蔵したようです。本展示に用いている標本は、この時にまとめて購入したカブトムシやクワガタムシが主体となっています。東南アジアや南米産の多様な標本については、現在購入しようとする膨大な額になっていたことでしょう。さらに、カブトムシやクワガタムシは標本のコレクターが多いのも幸いし、寄贈いただいた標本もかなりの数にのぼります。当館の標本収蔵庫に散在していたそれら標本を、筆者は種、属などのグループごとにまとめ、展示用の標本箱を作り上げました。これが2014年、「カブクワこれくしょん」初回のことになります。

●あれから10年も…

初回終了後も、筆者はカブトムシやクワガタムシの標本集めを怠りませんでした。東京や大阪で開催される標本即売会では、時には思わぬ掘り出し物が出品されていることもあり、あこがれていた標本をびっくりするくらい安値で入手できたこともあります。しかしながら楽しい思い出ばかりではありません。やはり長年恋

焦がれ夢にまで見た標本が出品されていた際には、筆者の一ヶ月分の給料以上の価格で購入を逡巡してしまい、その際に他人の手に渡ってしまったこともあります。このことは、筆者の人生の後悔の中で、3本の指に入る程の痛手となっています。

また、日本産のクワガタムシで所蔵していないものは、仕事の合間に、島嶼も含め方々へ採集に向かいました。このように、初回の展示から10年が経過し、さらに強化した2回目の特別展を2024年に開催する運びとなりました。カブトムシの標本は500点以上、クワガタムシは2,200点以上を展示しています。

(田中良尚)



【さいきんの

「伊丹デジタルミュージアム」ができました



「伊丹デジタルミュージアム」の伊丹市昆虫館チョウ温室バーチャルツアー画面

「伊丹市昆虫館」と「市立伊丹ミュージアム」の多彩なコレクションと、建造物やチョウ温室をデジタルでご覧いただけるウェブサイト「伊丹デジタルミュージアム」ができました。伊丹市が設置し、2024年4月1日に公開をはじめました。

当館のページでは、第1展示室のジオラマとチョウ温室のVR技術を駆使した仮想体験、「伊丹の昆虫」の標本箱、カブトムシやトノサマバッタなどの標本の高精細画像、チョウのくらしや飼育室などを紹介したスペシャルムービーを公開しています。家にいながら展示室を歩き回るように見ることができたり、家の周りで見つけた虫を「伊丹の昆虫」の標本箱の虫と見比べてみたりできるほか、ふだん公開していない飼育室や飼育作業のようすを紹介する映像もあります。伊丹市昆虫館のホームページにリンクボタンがありますので、のぞいてみてください。

市立伊丹ミュージアムのページも、芸術、歴史、俳諧のコレクション画像、昔の伊丹の暮らしがわかる映像など、目を見張るコンテンツが満載です。どちらもぜひご覧ください。

(坂本 昇)



伊丹デジタルミュージアムウェブサイトのQRコード

タガメが産卵しました!

2024年5月16日、生態展示室のタガメが産卵しました。飼育していた昨年生まれの成虫はオスとメス2匹ずつ。4月上旬からエサやり(金魚)の頻度を週1回から2回に変更して1ヶ月。腹部の厚みが増し、無精卵を産み始めたメスをオスと一緒にしました。止まり木は水面より15cmほど突き出るように水位を調整しました。するとオスは止まり木に登ったり降りたり、体を揺すって水面に波をたてるような動きを見せ、メスもそわそわ落ち着かない様子。これなら交尾するだろうと期待していたところ、なんとオスがメスに食べられてしまいました。タガメの飼育ではよくある失敗です。残るオスはあと1匹。メスの水槽には常に金魚を入れて好きなだけ食べられるような



交尾中のタガメ(左:オス、右:メス)

状態にして再チャレンジ。慎重にペアリングを試みます。ようやく水中での交尾(産卵中にも数回交尾をします)を確認、その後メスが止まり木に登る姿を観察。産卵はすぐに始まらなかったのですが、翌日には止まり木に見事な卵塊を産んでくれました。ここからふ化まではオスが卵塊を守り卵が乾燥しないようにお世話をします。メスを一緒にしておくとお自分の卵塊を壊すこともあるので別ケースへ。そこから約10日。60匹ほどの小さな幼虫が無事ふ化しました。ただいまバックヤードで絶賛飼育中です。

(野本康太)



卵塊を守るタガメのオス

飼育室から

域外保全の取り組みが野生生物保護功労者として表彰されました!

2024年5月12日、東京虎ノ門ヒルズフォーラムで開催された第78回野鳥週間全国野鳥保護のつどい(主催:環境省、公益財団法人日本野鳥保護連盟)にて、伊丹市、公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団が令和6年度野生生物保護功労者として表彰(公益財団法人日本鳥類保護連盟会長賞)されました。

全国野鳥保護のつどいは愛鳥週間(野鳥を含む自然環境に関する知識の普及・啓発のために設けられた期間、毎年5月10日から16日までの1週間)の中心的行事として開催されます。このつどいにおいて野生生物保護に関し特に顕著な功績のあった個人、学校及び団体に対しその功績をたたえるため野生生物保護功労者として表彰されるものです。

当館においてオガサワラハンミョウをはじめとする国内希少野生動植物種の域外保全活動(フサヒゲルリカミキリ、フチトリゲンゴロウ、ウスイロヒョウモンモドキ)に取り組み(オガサワラハンミョウにおいて累代飼育の成功、13年に渡る飼育継続、飼育個体の一部野生復帰)、絶滅危惧昆虫の現状や保全の取り組みについて様々な形で幅広く普及啓発活動を続ける他、有識者会議への参加を通じた情報提供など、行政機関の取り組む保護増殖事業に協力

などが評価されての受賞です。

域外保全の取り組みには人的、経済的なコストもかかり取り扱った種を増やすこと、継続をしていくことなど容易ではありませんが、かけがえのない豊かな生物多様性を未来に継承するための大切な仕事の一つと捉えています。(野本康太)

*公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団は、指定管理者として伊丹市昆虫館を運営する財団です。



野生生物保護功労者の盾と賞状

昆虫ウルTRASロー映像が新しくなりました

第1展示室のジオラマ脇で上映している「昆虫ウルTRASロー映像」が新しくなりました。昆虫写真家の高嶋清明さんによる、ハイスピードカメラでさまざまな昆虫が飛ぶ瞬間をとらえた映像です。チョウが飛んでいる最中のはねの動きや、カミキリムシの飛び立ちのシーンなど、肉眼ではとらえきれない動きをつぶさに観察できること、そして飛翔する昆虫たちの美しさや力強さによって、見る人々の目を釘付けにしてくれました。

新しい映像も撮影と編集は高嶋さんが手がけました。新作では飛翔する昆虫のラインナップが新しくなっただけでなく、コメツクムシの跳ねる様子やバッタがうんこを跳ばす瞬間など、飛翔とは異なる動きの瞬間もハイスピードカメラでとらえ、見せてくれます。ダイナミックなだけでなく時にはユーモラスにも感じられる昆虫たちの動きは、これまでの映像以上に見はじめると目が離せなくなってしまう。どうぞお楽しみください。

普段は第1展示室のジオラマで上映していますが、7月20日

から11月25日までの特別展「カブクワこれくしょん2024」期間中は、1階の映像ホールでの上映に替わります。1日中の上映ではなくなりますが、どうぞご覧くださいませ。(坂本昇)



1階第1展示室での上映のようす(マダラバッタの飛翔シーン)

【さいきんの飼育室から】

タヌキのため糞

昆陽池公園内でタヌキのため糞を発見しました。タヌキは場所を決めて糞をする習性があり、仲間どうし共同でため糞場を利用するといわれています。実際にどのように使われているのかを確認するため、ため糞がある場所に赤外線自動撮影カメラを設置してみました。

設置してから1日目の映像を確認すると、カメラを警戒しながら歩くタヌキが撮影されていました。カメラを仕掛けることで、落ちて糞ができないのではないかと心配になりましたが、9日目には初めて糞をする姿が撮影されました。その後もため糞場の撮影は続きました。日によっては、踏ん張ってなかなか糞が出ないタヌキもいました。タヌキも便秘だったり、下痢だったり、日によって違いがあるんだと興味深かったです。カメラの前に現れる2匹のタヌキの姿も頻繁に撮影されました。この時期、タヌキは繁殖期でもあるので、この2匹が成長した子どもを連れて、このため糞場に現れるのか、楽しみです。（前畑真実）



ため糞場で糞をするタヌキ（設置してから9日目）



タヌキのため糞、林床にたくさんの糞が集まっている



ため糞場に現れた2匹のタヌキ

ごくまれにしか出現しないツダナナフシのオス

ツダナナフシは宮古島、石垣島、西表島および台湾に分布する大型のナナフシです。海岸のアダンというタコノキ科の植物だけを食べます。通常は、メスが交尾をせずに卵を産むことができる「単為生殖（たにいせいしよく）」という方法で繁殖し、オスはごくまれにしか出現しません。

オスは、これまで石川県ふれあい昆虫館（2015年）と当館（2016年）の飼育個体でオスが発見された例があります。また、台湾では2020年に野外でみつかったオスが報告されています。オスが出現する条件はまだくわしくわかっていませんが、とても少ないようです。

さらに今回、2024年4月8日に、当館の飼育室の中でオスがみつかりました。オスは、メスに比べて体が小さく、長い後翅が目立ちます。このオスは、2024年4月10日（水）から5月6日（月）までの期間限定で、1階の生態展示室で生きたまま展示しました。

（長島聖大）



ツダナナフシ（上：メス、下：オス）

むしムシ虫眼鏡

Vol. 28 ムシクソハムシ

葉っぱの上に虫の糞!と思ったら昆虫(写真1)。ムシクソハムシは、その名の通り虫の糞に擬態したムシクソハムシ属の1種です。成虫は4月~9月にクヌギやコナラの葉の上で見られます。危険を感じると脚や触角をおりたたみ、擬死(死んだふり)をしてポロツと落ちてしまいます(写真2)。

成虫は葉の上に産卵したあと、自分の糞をくっつけて卵を覆い隠します。幼虫は自分の糞で作った筒状の隠れ家(寝袋のよう)に体をいれたまま移動し、葉を食べて成長します。動かない時は隠れ家の中に閉じこもります。まるでカタツムリのようにです。蛹になるのもこの糞の隠れ家



1. 葉の上にとまるムシクソハムシ

の中で行い、羽化の時をまちます。

成虫は虫の糞に擬態し、卵は糞でおおわれ、幼虫や蛹は糞の隠れ家で身を守る。糞をフル活用した昆虫です。(角正美雪)



2. 左:とまっているところ、右:死んだふりをしたところ

<ムシクソハムシ>

学名: *Chlamisus spilotus*

分類: コウチュウ目ハムシ科

体長: 3 mm 前後

亜熱帯の温室から

Vol. 28 ルリマツリ

チョウ温室の中で青色の花を咲かせる植物を探してみると。宝石の翡翠から名がついたヒスイカズラ、そして清涼感のあるスカイブルーが特徴のルリマツリがあげられます。紫色に近いですが先の号で紹介したナガボソウ、鉢物で入るペンタスやヘリオトロープなどに



ルリマツリの花

も青系の花色があります。ルリマツリは属名のプルンバーゴの名でも親しまれ、ガーデニング植物として街中でもよく見かけます。南アメリカ原産の常緑低木で、枝先に漏斗上で先が5裂した花冠がいくつか集まった穂状花序をつくります。温室の中ではほぼ1年中開花し、チョウ温室では20年以上経過した株が今でも元気に花を咲かせています。萼の部分には多くの腺毛が生えており、手で触るとベトベトします。葉や花を食べてしまうような害虫から身を守っているのでしょうか?チョウにはこのベトベトが気にならないのか、アゲハの仲間が好んで蜜を吸いにやってきます。温室内には赤い花を咲かせるアカマツリもありますが、ルリマツリのような勢いはなくひっそりとごくたまに開花しています。(野本康太)

<ルリマツリ>

学名: *Plumbago auriculata*

分類: イソマツ科ルリマツリ属

ことば蔵 × 市内郵便局 × 昆虫館コラボ企画 誰かに伝えたい「身近な自然絵はがき」大募集! 2024

伊丹市昆虫館、伊丹市内郵便局、伊丹市立図書館ことば蔵の連携による、「身近な自然絵はがき」を今年も募集します。

審査のポイントは、「身近な自然が生き生き、のびのびと表現されていること」。応募作品はすべて、ことば蔵、昆虫館で展示されるほか、当館展示期間中に使用できる昆虫館招待券付きポストカードをプレゼント!さらには、受賞作品には表彰状と記念品が贈呈されます。こちらは、11月3日にことば蔵で式典が行われます。夏休みの思い出に、身近にある自然にことばを添えて、自分だけの絵はがきを書いてみませんか?

【応募方法】

郵便はがき(63円)に身近で見つけた自然をテーマに絵を描いて、ことばなどを添え伊丹市昆虫館へお送りください。差出人欄に住所、氏名、電話番号をご記入ください。もしくは、伊丹市内郵便局窓口、伊丹市昆虫館、ことば蔵へ直接持参。

【応募宛先】

〒664-0015 兵庫県伊丹市昆陽池 3-1
伊丹市昆虫館 自然絵はがき係

【受付期間】

2024年7月15日～8月31日(当日消印有効)

(西 史夏)

ミュージアムショップがキャッシュレス対応となりました

ミュージアムショップのレジでは現金以外に、クレジットカードや電子マネー、バーコード決済などが利用できるようになりました。

ただし、入館券のキャッシュレス決済導入は2025年以降を予定しており、それまでは現金のみの取り扱いとなります。ご了承くださいませ。

(西 史夏)

ちいさなおこさまコーナーが復活しました

長い間ご不便をおかけしておりましたが、感染対策のためお休みしておりました幼児向けのコーナーが復活しました。絵本も取り揃えておりますので、ゆっくりとお過ごしください。(前畑真実)



【もよおしあんない】

*展示・行事は、日程・内容等を変更することがあります。最新情報はウェブサイトをご確認ください。

8月

- 3(土) 昆虫標本の作り方講座【要予約】
- 10(土) 学芸スタッフトークショー
野本副館長の
「フシギでスゴイ!虫のだっぴ」
- 18(日) 伊丹市生物多様性交流フェスティバル

9月

- 6(金)～15(日) 鳴く虫と郷町

10月

- 14(祝月) 学芸スタッフトークショー
角正学芸員の「昆虫館のチョウ飼育のうらがわ 秋～春編」
- 26(土) 秋の原っぱで虫さがし【要予約】

特別展

7/20～11/25 カブクワこれくしょん 2024

プチ展示

6/5～9/2 カイコ
10/2～12/28 どんぐり大集合
11/20～12/28 さなぎツリー

行事の申込方法

- ・伊丹市内に在住の方
「広報伊丹」をごらんください。
*広報伊丹へは実施日の約1ヶ月前に掲載します。
電話での問い合わせには掲載以降にご案内します。
- ・伊丹市外に在住の方
電話でお問い合わせください。
*講習会・観察会実施日の約1ヶ月～2週間前までにお問い合わせください。

申し込むには...

- ・Eメール(PDF添付を含むPCメールとのやりとりができるアドレス)、FAXおよび往復はがきで受け付けします。①行事の名前、②申込者全員(同伴含む)の氏名(ふりがな)、③年齢(学年)、④住所、電話番号を記入し、受付期間内にお送りください。申込多数の場合は抽選になります。
- ・小学生以下は保護者同伴での申し込みをお願いします
- ・FAXの宛先番号 072-785-2306
- ・Eメールアドレス itakon@itakon.com
(メールを送って3日以内に受付の返信がない場合は、お手数ですが再度ご連絡ください)
- ・往復はがきの宛先住所
〒664-0015 伊丹市昆陽池 3-1 伊丹市昆虫館

編集スタッフより

ナメクジが少しずつ成長していくのを眺めるのが、最近の楽しみです(さかもと)

この春に新女王を採集したクロナガアリの飼育が順調です。ずっと飼ってみたかった植物のたねを食べるアリです!(ながしま)

次回(第44号)発行は、2025(令和7)年2月頃の予定です。

表紙写真 樹液を吸うノコギリクワガタ(撮影:田中良尚)

いたこんニュース 第43号 Vol.22 No.1 (通巻43号)
2024(令和6)年7月発行
発行 伊丹市昆虫館
〒664-0015 伊丹市昆陽池 3-1 昆陽池公園内
TEL: 072-785-3582 FAX: 072-785-2306
URL: https://www.itakon.com/
E-mail: itakon@itakon.com

編集 坂本昇・長島聖大
デザイン原案 pico'pictures
印刷 アイシー印刷株式会社